

「水曜サロン with 赤堀会長」第5期 第4回（通算63回）

デジタルを活用する未来に向けて

～デジタルを動かす「人」にアプローチするパターン・ランゲージという手法～

1. 内容

- ・パターン・ランゲージとは
- ・パターン・ランゲージで表現されている領域（「人」が実践していること）
- ・アクティブ・ラーニング支援パターン
- ・創造的な探求のためのパターン・ランゲージ
- ・未来の自分を作る場所：進路を考えるためのパターン・ランゲージ
- ・デジタルを活用する未来に向けて デジパタ
- ・最高のオンライン授業の作り方

2. 所感

パターン・ランゲージとは、よい質の実践の本質を捉え、更なる実践を支援するための体系化と言語化で、成功の本質は本人では捉えにくく、まずは、成功している複数人（ひとり2時間程度）へインタビューして、1000ぐらいのコツを書き出し、本質を探っていく。そして、本人ではない、他人がまとめることで、皆に、型、ことばとして伝えていける。うまくできていない人へサポートしてあげる。タイ焼きのような複製の鋳型にはめるような型のイメージではなく、生成の過程の一部のポイントに型があるようなので、活用することで、一定の質は保たれているが結果は多様になるイメージで、武道の型のようなもの、抽象的な理念とマニュアルの間のものとのこと。現在、様々な領域で、抽象化・言語化をされており、例えば、「企画」、「おもてなし」、「探求」、「教え方」、「進路実現」、「学び方」、「認知症と生きる」、「震災対応」などが、体系化、言語化されているようです。事例で興味深かったものを3つご紹介します。「おもてなし」について、大学の先生が、自分の場合、その対象は、学生であると見立てて実践してみたこと。もう一つは、中高生向けに作られた進路を考えるためのパターン・ランゲージが、転職やシニアの第二の生きがい探しに役立っている事例を紹介いただきました。シニアの方々が生き生きと語り合い、生きがいを見つけている様子を想像して、想定よりも応用幅が広い活用が期待されるものであると思いました。3つ目は、デジタルを活用する未来に向けての「デジパタ」について。これは、もっと早く出会いたかった、ヒントをたくさんいただきました。よりよく暮らしていくためにどのようにデジタルを活用していくかについて、まずは3つに分類され、それぞれ9つのことばに言語化されていました。「それいいねの実感」、「使い始めの伴走」など、今すぐにでも使えると思えるものがあり、デジ庁のサイトにありますので、ぜひ、ご確認ください。

質疑では、企業秘密に近いところの質問が出ましたが、かなり踏み込んでお答えいただき、質問された方の満足度は高かったのではないかと思います。

阿部さん、本日は、すぐに実践で使いたくなるようなお話を、深いところまで丁寧にお話しいただきましてありがとうございました。

以上